

「古墳時代のデザイン・モチーフ～動物意匠を中心に」

昭和女子大学 小泉玲子

はじめに

動物意匠：動物のデザイン・モチーフ

デザイン＝形・・・そのものを表現したもの、
モチーフ＝文様・・・機能と直結していない・付随

概要：古墳時代には馬に乗るための道具の他、馬をデザインに取り入れたさまざまな製品が見つかります。また、古墳に立てられた埴輪には馬・犬・猪・鹿などを造形した動物埴輪があります。さらに埴輪の表面に描かれた絵の中にも鹿や馬がモチーフになっているものがあります。こうした動物意匠は古墳時代の人々にとってどのような意味をもっていたのかを考えます。

1. 古墳時代の動物意匠

〈モチーフ〉

鏡（龍・蛇）、冠（馬・鳥①）、帯金具（馬・龍・獅子②）、柄頭（龍③・鳳凰・獅子）

馬具（龍・鳳凰・兔・象）装飾古墳（馬・犬・鹿・鳥）、壁画古墳（四神）、埴輪の線刻（鹿④・馬・鳥）

装飾付須恵器（馬・鹿・犬・猪）、埴輪の線刻（鹿・馬・鳥）、土器の線刻（馬）

〈デザイン〉

動物埴輪（馬⑤・鳥⑥・犬・猪・鹿⑦・牛⑧・猿・ムササビ・魚）、土製品（犬・猪・鹿・猿）



①奈良県藤ノ木古墳
(前園 1995『斑鳩藤ノ木古墳』)



②佐賀県牟田辺遺跡
(江戸東京博物館「列島展」)



③岡山県岩田14号墳



④岡山県正免東古墳
(岡山県山陽郷土館にて撮影)



⑤大阪府長原87号墳
(群馬県立博物館にて撮影)



⑥大阪府今城塚古墳
(高槻市歴史館にて撮影)



⑦岡山県土井遺跡
(古代吉備文化財センターにて撮影)



⑧大阪府今城塚古墳
(高槻市歴史館にて撮影)

〈古墳時代の動物意匠の特色〉

馬・牛以外のモチーフ、デザインは弥生時代にも土器・銅鐸・木製品・土製品などに描かれる。古墳時代は鏡・冠・装飾大刀・馬具は古墳の副葬品、装飾古墳・壁画古墳は遺体を安置する石室内に絵が描かれる。埴輪は古墳に立てられた土製品。古墳は当時の権力者の墓。弥生時代と同じデザインやモチーフが古墳時代に見られたとしても意味合いが異なる

2. 動物埴輪のデザイン～種類と出現

動物埴輪の種類 馬・牛・犬・猪・鹿・牛・猿・ムササビ、鳥（鶏・白鳥・鶇など）、魚

	動物埴輪	動物埴輪以外	主な配置場所、他
3世紀末		器財・家	墳頂
4世紀前半	鶏		墳頂、墳丘
4世紀後半	水鳥		墳丘、造出、堤、水際(水鳥)
5世紀前半	馬・犬・猪 鹿・鶇・牛	人物	造出、堤
6世紀後半			
7世紀			関東地方

*猿、ムササビ、魚の出土例は少ない

馬・・・馬具を装着

犬・・・首輪を装着

鶏・・・止まり木に乗る

→限定された種類

人との関わりを示す造形

図1 埴輪の種類と出現

3. 馬のデザイン・モチーフ

(1) 馬の意匠

馬の存在を示す馬骨・歯や牧の検出、馬の意匠は古墳時代以前には未確認

馬と日本列島の人々が関わりを持ち始めるのは古墳時代から（4世紀以降）

馬の存在 馬骨・馬歯の出土

人との関り 馬の墓・・・埋葬遺構

騎乗、制御するための道具の存在・・・馬具（鞍、鐙、轡、泥障など）

飼育を裏付ける痕跡・・・牧の検出⑨、鞭、ブラシの出土

意匠・・・馬形埴輪、冠⑩・帯金具の装飾、装飾付須恵器⑪、埴輪の線刻、土器の線刻



⑨鶇馬の蹄跡 群馬県吹屋中原



⑩冠 茨城県三味塚古墳



⑪装飾付須恵器 岡山県槌ヶ谷出土
(国立文化財機構所蔵品総合検索システム)



(2) 馬形埴輪の造型の特徴

・飾り馬（全身に馬具を装着）、鞍馬（乗馬用の馬具装着）、裸馬（轡・手綱装着）の表現

・たてがみを結ぶ ・尻尾をリボンで巻く ・馬子の存在

栃木県甲塚古墳・・・飾り馬・鞍馬・裸馬の作り分け、白馬、鞍の右側面に足台（横座り用？）

石川県矢田野エジリ古墳ほか・・・騎乗する人物を造形

4. 鹿・犬・猪形埴輪の特徴と出土状況

(1) 鹿形埴輪

64例

5世紀中頃～6世紀後半

特徴 角(枝角・牡鹿⑬)、斑点⑭(夏毛・小鹿)、尻尾、振り返り⑫
矢負い耳の誇張、首が長い、親子⑬・雌雄で配置する場合も

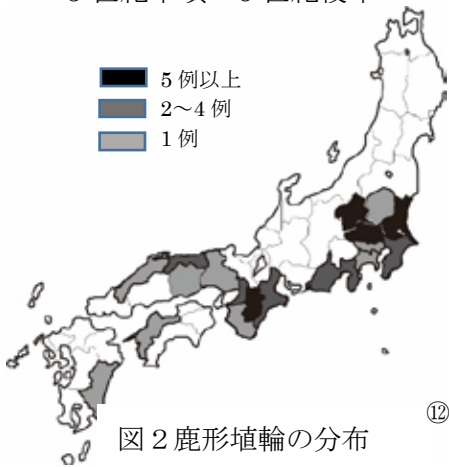


図2 鹿形埴輪の分布



⑫奈良県四条1号墳



⑬鳥取県井出挾3号墳
(鳥取県上淀白鳳の丘
展示館で撮影)



⑭鳥取県上下211号墳
(「2020年度列島展」
東京江戸博物館で撮影)

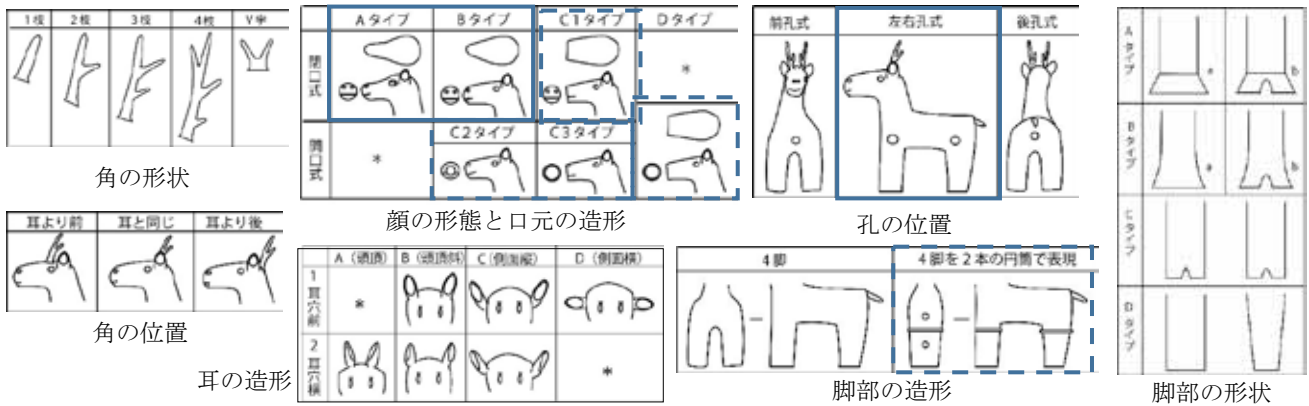


図3 鹿形埴輪の造形

西日本に見られるタイプ

東日本に見られるタイプ

(2) 鹿にまつわる信仰

『日本書紀』に見られる鹿(平林 2011 より)

応神天皇13年条 日向の髪長媛入内伝承の異伝 淡路島で狩猟の際の出来事、海を泳ぎ渡る鹿の記載、地名鹿子・水手の起源説話、

諸県君牛が有角鹿皮(有角鹿皮装束?⑮)をまとう様子の記載

→鹿角は若角(鹿茸)の薬効を含め永遠を象徴不老長生の象徴

鹿そのものが靈獣として崇拝されていたことを彷彿とさせる

『播磨国風土記』にみられる鹿(藤田 2013 より)

讃容郡 大神夫妻が土地の争いをされた時、姫神が生きた鹿の腹を裂いて、稲穂をその血に蒔くと、一晩の内に苗が生え田植えが出来た。負けた大神は「おまえは、五月夜に植えたんだなあ」と言って他の所に移って行かれた。だから五月夜郡と名付けた。・・・複数の地名の由来として鹿が登場

→鹿が特別な存在であったことを示す。さらに、鹿の血と稲作の関連伝承は、鹿が狩りの対象としてだけではなく、農耕と結びついた土地の精霊と理解されていたことを物語る



⑮茨城県桜川氏青木
大阪歴史博物館保管
(東京国立博物館 2024「埴輪展」)

(3) 犬形埴輪

28例 5世紀中頃～

特徴 卷尾⑩、首輪⑩⑪、ストップ、
口元（舌を出す⑩、威嚇⑪・吠える表現）

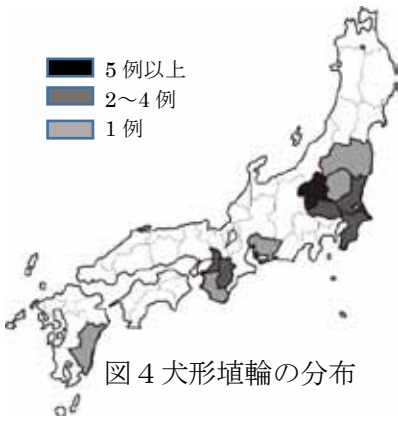


図4 犬形埴輪の分布



⑩群馬県剛志天神塚古墳 ⑪大阪府昼神車塚古墳
(国立文化財機構所蔵品総合検索システム) (大阪府高槻市古代歴史館にて撮影)

(4) 猪形埴輪

39例 5世紀前半～

特徴 たてがみ・耳・口元（長めの鼻先）⑩⑪、牙、蹄、矢負い⑩

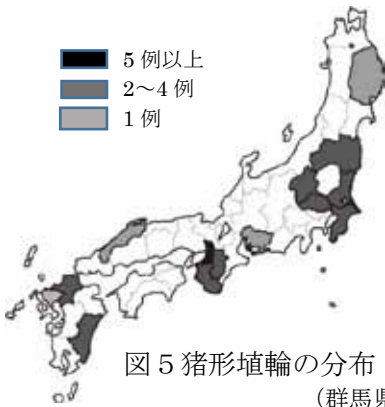
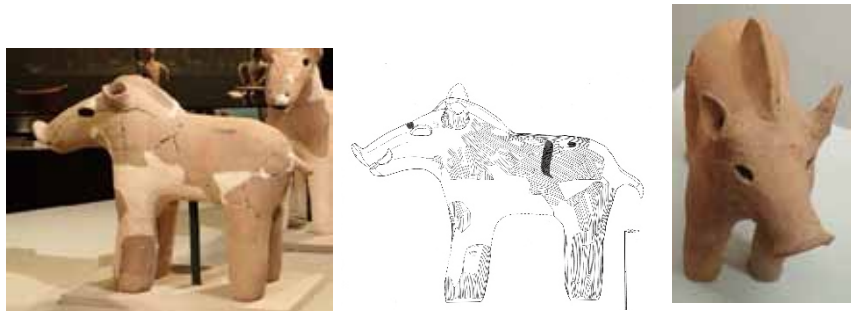


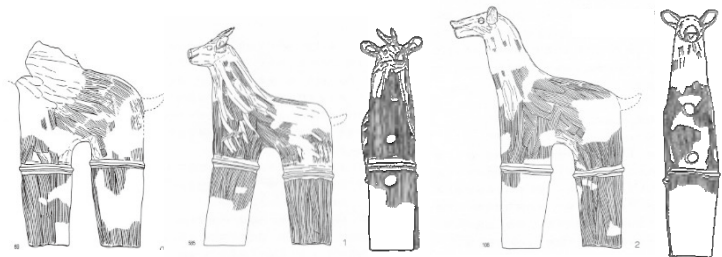
図5 猪形埴輪の分布



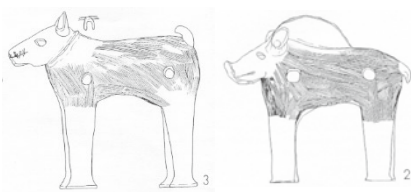
⑩群馬県保渡田Ⅶ遺跡 (群馬県かみつけの里博物館にて撮影) (若狭 1990『保渡田Ⅶ遺跡』)
⑪大阪府昼神車塚古墳 (高槻市古代歴史館)

(5) 組合せ

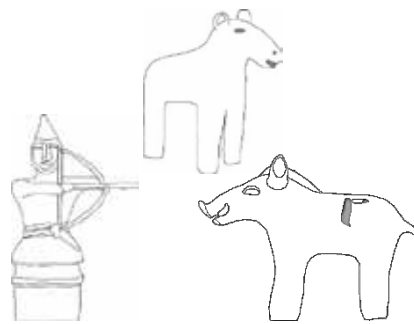
- 猪形埴輪+鹿形埴輪+犬形埴輪⑫ 7例
- 猪形埴輪+犬形埴輪 ⑬ 6例
- 猪形埴輪+犬形埴輪+狩人 ⑭ 2例
- 鹿形埴輪+犬形埴輪 5例
- 鹿形埴輪+猪形埴輪 12例
- 鹿形埴輪+狩人⑮ 1例
- 犬形埴輪 10例
- 猪形埴輪 12例
- 鹿形埴輪 39例



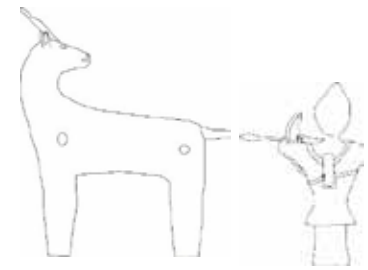
⑫猪+鹿+犬 千葉県竜角寺 101号墳
(安藤鴻基 1988『龍角寺古墳群発掘調査報告書』)



⑬犬+猪 大阪府昼神車塚古
(富成哲也 1978『考古学協会年報』29)



⑭猪+犬+狩
(群馬県保渡田Ⅶ遺跡の事例から作図)



⑮鹿+狩
(静岡県辺田平1号墳の事例から作図)

5. 埴輪の線刻の動物意匠について

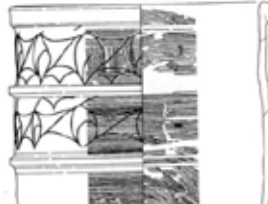
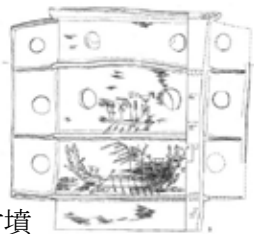
(1) 埴輪の線刻

- ・線刻：埴輪の表面（内外面）に施された沈線による絵画・文様・記号など
「ヘラ記号」「篋描き」「窯印」とも *ヘラ・篋を特定できない、窯焼成以前の事例も
- ・種類：絵画的なもの（舟②④・鹿・馬・人物・樹木）
文様のなもの 突帯間に同じモチーフが連続して描かれる②⑤
記号的なもの 絵画的・文様のものの以外、形だけでは何を表現したか不②⑥



②④ 奈良県東殿塚古墳

(松本洋明 2000『西殿塚古墳 東殿塚古墳』)



②⑤ 岡山県前内池古墳

(埴輪研究会 2007『岡山県地域の埴輪』)



②⑥ 栃木県塚山古墳

(昭和女子大学所蔵品)

・研究状況

モチーフの解釈 (辰巳和弘 2011、春成秀爾 2011)

生産組織および供給関係

生出塚埴輪窯とさきたま古墳群 (城倉正祥 2011)

(2) 描かれた動物の種類と出土状況 (図6・7)

- ・モチーフ「鹿」35例、「馬」「馬？」8例、「龍？」1例
「鳥？」2例、「犬？」1例、「猪」1例
→主流は「鹿」 京都府9例、大阪府8例
岡山県4例

・東日本と西日本の事例

・形象埴輪の動物文②⑦

→鹿もしくは狩猟文

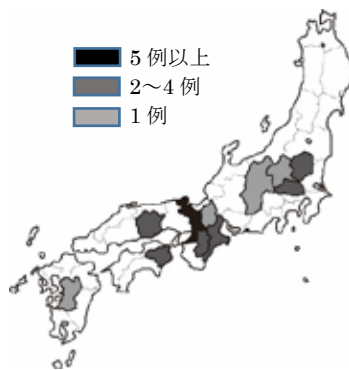


図6 動物線刻の出土分布



図7 動物線刻一覧 (小泉 2014)

②⑦ 大阪府今城塚古墳盾形埴輪
(高槻市古代歴史館にて撮影)

・埴輪棺の動物文

→鹿が樹木、鳥？などと描かれ物語性をもつ例

岡山県陣馬山遺跡群出土円筒埴輪「鹿+鳥」(矢部 1985)

京都府与謝野町作山2号墳 丹後形円筒埴輪「鹿+樹木」②⑧

②⑧ 京都府作山2号
(与謝野町立博物館にて撮影)



(3) 埴輪線刻の意味を考える～二子山古墳の事例（ナワビ矢麻 2023）

・二子山古墳

埼玉県埼玉古墳群 前方後円墳 全長 132m 主体部は未調査 古墳時代後期（6世紀前半）

出土品：円筒埴輪・形象埴輪・須恵器・土師器、中世の板碑など

・動物線刻「鹿」・「馬？」

・二子山古墳の事例からわかること

線刻を持つ埴輪が造出しに集中→埴輪を制作する段階で埴輪の配置を想定していた？

造出しの出土品、大量の須恵器・高坏→供献敵要素が強い

形象埴輪は中堤周辺、線刻のある埴輪は造出し周辺

→場の明確な使い分け 中堤造出し：外から見える場所、墳丘造出し：被葬者に対する供献

おわりに

古墳時代の動物意匠からわかること～埴輪の動物意匠から

動物埴輪 ・人物埴輪などと共に配置→当時の人々の死生観をもとにした意図や物語性を反映

・馬形埴輪 威信材

・鹿にまつわる伝承や信仰 鹿は狩りの対象、作物を荒らす害獣、土地の精霊

・鹿形埴輪は「鹿狩り」を象徴 →土地を支配することの象徴

・西日本：犬と猪もしくは鹿のみ 狩人は表現しない→表現しなくてもイメージ可能

東日本：犬と猪、犬・猪・狩人、犬・鹿・狩人、矢負いの表現→説明的

埴輪の線刻：鹿のモチーフが主体、弓矢を強調する例、猪・犬を描かない

二子山古墳の事例→あらかじめどこに配置されるか想定した製作？

線刻が被葬者に対する供献的な意味を持つ可能性

→動物埴輪は観た人が理解できることが必要、西日本では狩人を表現しなくても理解できたか。

動物埴輪は首長が行う儀礼の一つである「狩猟儀礼」を象徴

→見せることに意味がある。埴輪配列は埋葬された人のためではない

《参考・引用文献》

小泉玲子 2013 「埴輪の動物線刻について」『昭和女子大学文化史研究』第 16 号 99-120 頁

小泉玲子 2014 「鹿形埴輪について—分布と造形—」『昭和女子大学文化史研究』第 17 号 89-112 頁

小泉玲子 2015 「古代の狩猟儀礼について—埴輪にみられる動物意匠から—」『昭和女子大学文化史研究』18 号 96-114

城倉正祥 2009 「ヘラ記号と工人」『埴輪生産と地域社会』学生社：25-45 頁

辰巳和弘 2011 「古墳文化にみる船と馬」『他界へ翔る舟』新泉社 309-311 頁

ナワビ矢麻 2023 『特別史跡埼玉古墳群 二子山古墳発掘調査報告書』埼玉県立さきたま史跡の博物館

春成秀爾 2011 「埴輪の絵」『祭りと呪術の考古学』塙書房：155-187 頁

平林章仁 1992 『鹿と鳥の文化史』白水社：5-71、134-160 頁

藤田 淳 2013 『播磨国風土記—神・人・山・海—』兵庫県立考古博物館展示図録

藤原秀樹 1998 『鹿と古代人』鈴鹿氏考古博物館特別展図録